

会 議 要 旨 書

会議名	令和6年度第1回三鷹市生涯学習センター利用者懇談会
日 時	令和6年9月19日(木) 午後4時～5時30分
場 所	三鷹中央防災公園・元気創造プラザ5階 生涯学習センター学習室5、6
出席委員 (9人)	進邦徹夫、田山光興、鈴木康継、荻原浩二、登内京子、平林孝章、本間あずさ、小暮裕子、長瀬雅之 (敬称略)
欠席委員 (4人)	尾本政二、引馬彩子、向井知子、他一人(敬称略)
行政職員 (5人)	スポーツと文化部長 大朝摂子、スポーツと文化部調整担当部長 平山寛、生涯学習課長 八木隆、生涯学習課主査 中西崇郎、同主事 秋山倅穂
会議の公開・ 非公開	公開
傍聴人数	0人
<p>1 委嘱状交付 スポーツと文化部長より、新任委員へ委嘱状の交付を行った。</p> <p>2 開会 事務局より、「三鷹市市民会議、審議会等の会議の公開に関する条例」に基づき、会議の公開、会議録の作成、公開についての説明及び配付資料の確認を行った。今後のスケジュールについても確認を行った。</p> <p>3 議題 【座長】 去年の懇談会の中で出たご意見、あるいはその対応状況についてご説明いただければと思う。 事務局より、資料2をもとに説明を行った。 【座長】 続いて、生涯学習センターで実施している事業について、三鷹市スポーツと文化財団からご説明をいただきたい。 【委員】 資料5が令和6年度の事業計画になっており、特徴的な3つの取り組みについてご説明する。 みたか学は三鷹の地域について学ぶ講座である。好評につき今年度より1講座増やしている。SUBARU東京事業所や国立天文台にご協力いただき、SUBARU東京事業所内で星空観望会を12月に実施する。 また、三鷹まるごと博物館事業と連携した講座では、太宰治文学サロンの学芸員を講師に座学を行い、三鷹観光ガイド協会ボランティアさんと太宰治の関連スポットをめぐる。 さらに、今年度より元気創造プラザ連携講座をスタートする。元気創造プラザ5階のNPO Mitaka みんなの防災と市の防災課と連携し、元気創造プラザの防災拠点バックヤードツアーを小学3年生以上を対象に開催する。 特徴の2点目、小・中学生向け講座事業では、市民大学のジュニア版を夏休みに開催した。また、小・中学生の放課後の居場所づくりや多世代交流を目的とした子どもふらっとプレイス</p>	

事業を4月からスタートしている。毎月1回、水曜日の午後3時から5時に開催している。講師は人財バンク「まちの先生」や生涯学習センターご利用の自主グループ、絵手紙や英会話、三鷹市芸術文化協会の囲碁協会様にもご協力いただいた。

特徴の3点目、今年度より個人の学習を支援するために、学習スペース開放時間を拡充している。夏休みは、開放時間を夜8時から9時に延長した。また、休館日を除いて毎日、学習スペースを開放している。平日は午後3時45分から9時、土日祝日は午前9時から午後9時まで開放している。多い時には60人ぐらいの利用があり、高校生や大学生を中心にご利用いただいている。

【座長】今までのご説明を踏まえて、意見交換をしていただきたい。

【委員】毎年12月8日に句会をやっている。しかし、今年の12月8日は元気創造プラザも協働センターもさんさん館も全部部屋の予約が押さえられている。日にちを変えれば何とかできるが、一般市民への貸出の検討の余地はないのか。

【スポーツと文化部長】まず、プラザでいうと、その日は生涯学習センターフェスティバルとまるごとウェルカムデーを行う日であるため、7日、8日と二日間部屋をおさえている。さんさん館は同じ日に商工まつりがある。商工まつりは今まで7月頃に開催されていたが、熱中症対策で屋外のイベントができないということもあり、12月7日、8日になったと聞いている。そのため、市役所の中庭、さんさん館、公会堂等は、商工会のほうで商工まつりのために押さえられていると思う。協働センターは別なイベントがあるのかもしれない。生涯学習センターフェスティバルの日程は半年前ぐらいから公表されるので、そのスケジュールを見ていただきたい。商工まつりも比較的前に公表されると思う。

【座長】ほかにあるか。前回総合コースの課題が多かったので、生涯学習センターの事業の内容についてもご意見いただきたい。

【スポーツと文化部長】総合コースのことも、それ以外のことも含めて、ソフト面については特にご意見いただければと思っている。日頃素朴に思っていることで構わないので私たちが説明できることであれば、ここでご説明して解決できればと思う。

【委員】ゴルフ練習場の天井のネットが、二重、三重にしてあるが垂れてしまう。下がらないように何かしてもらえたらありがたい。

【委員】元気創造プラザ全体的なところについては、三鷹市スポーツと文化財団のほうで管理・運営を任されているところであるが、屋上の部分の管理としては社会福祉協議会になる。今いただいたご意見は社会福祉協議会に責任を持って伝えたいと思う。

【スポーツと文化部長】1階、地下1階、地下2階にあるスポーツセンターは三鷹市スポーツと文化財団（以下「財団」という。）が直接運営をしているが、屋上のゴルフ練習場は、3階の福祉センターがご高齢の皆様の健康増進のために管理・運営をしているもので、直接的に財団が直しに行くということではない。ただ、ご意見をいただいたので、管理しているものにきちんと伝えさせていただく。

【委員】資料3の裏面の2ページ目の小番号2、講座内容について（総合コース）に記載のある「講師謝礼の金額をあげていただくとより有名な講師を呼べると思う」というのは、総合コースの普通の講義の講師謝礼ではなくて、公開講座の講師謝礼ということである。

【スポーツと文化部長】より広く行う場合は、普通の講義の際よりも少し高いと、よりPR効果があるのではないか、というような趣旨だということか。

【委員】そうである。事務局の方が私たちのつけた優先順位から交渉してくださるが、都合がつかないということで断られることがほとんどである。その理由が忙しいからなのか、謝礼が安いからなのか本当のところは分からないが、なんとなく倍ぐらいになったら良いと考えている。

【委員】今年度、公開講座の土曜日はホール 126 人に加えて、Zoom200 人、オンデマンド配信 200 人、合わせて 526 人が定員となるため、謝礼の基準により、謝礼金が倍になっている。

ただし、企画委員が候補に挙げる講師が著名な方で、本当にお忙しくてご都合がつかないことが多いと思われる。

【委員】来年度の企画委員会が来週にあるが、議題として出したほうがいいのか。

【委員】公開講座の講師は最終回に決まるので、議題を早めてもいいかもしれない。

【委員】最低でも年内には優先順位が決まっていたほうが良いということか。

【委員】そうである。テレビに出られている方や、著名人の候補が多いため、1年前から予定が決まっているということでお断りされてしまうこともある。

【スポーツと文化部長】最終的に意見に反映するときには、今言っていた趣旨で付け加えるようにする。

【委員】総合コースの講座は大体プロの先生に講座をお願いしている。昔はセミプロのような人をお願いするというケースが結構あったが、今はあまりないか。

【委員】20人中2割ぐらい、大学の先生でない方がいる。教育コースは全員大学の先生だが、去年、歴史分野は三鷹市に住んでいる、一般のかたであった。

総合コースの第1回目からの講座を全部読み返してみたところ、当時はメイン講師というのはあまり決まっていなかったのかもしれないが、大学の先生以外に、NPO法人や弁護士、地域の人等もいた。また、1968年から90年ぐらいまでの間は主婦向けの講座が多かった。学問ではなく、子育てと地域、生活と文学等、趣味的なものが多かった。団塊の世代が定年退職を迎えたあたりから、政治や経済等が多く、主婦向けの講座がほとんどなくなってきたり、定員割れしたりしている。団塊の世代というのは、学問をもう一度勉強したいという気持ちが強いので、大学の先生が主体になるのではないかと考えられる。

【スポーツと文化部長】社会教育会館で公民館としてやっていた時代があり、特に1960年代は、公民を育てるといふ言い方で講座を開設していた。

またコロナ前はお子さん連れで受講しに来る方や子連れで参加できる講座を増やしてほしいという声が多かったが、コロナを挟んで、感染リスク等を理由に定員割れして、今も戻っていない。時流だと感じている。ニーズが違えば講座の内容は変わっていいと思うが、子育ての講座だと、コロナを挟んで大きな影響があったのではないかと考えている。

市民の学習の傾向が変わってくるということについて、座長はどのように考えていらっしゃるか。

【座長】自治体側も、どういう話題を提供するかというのが変わってきているというのは、先ほどおっしゃったとおりである。

戦後すぐは、大学に行かなかった青年層を集めて、青少年会館等をつくってやっていた。だんだんそれが主婦層になってきたり、寡婦に対する講座があったり、昭和 50 年ぐらいまではそのような感じだった。

ネットワーク大学がまちづくり研究員というものをここ数年やっていて、話を聞かせてもらうこともあるが、秀逸なものや勉強になることも多い。そういう方が先生になってもいいのではないかと思う。情報共有をすると三鷹の学びにつながっていくと思う。特にまちづくり研究員は三鷹について研究しているため、市民に三鷹をいろいろな分野から知っていただくとうごく良いと思う。そのような講座を生涯学習センターでやっていただくと、研究員も研究の成果を発表する場にもなるし、前向きにやってくださると思う。

【委員】市民であって大学の先生ではないが、例えば俳句でいえば現代俳句協会の事務局長をやっている人のようなクラスになってくると、無料でいいのかと思うが、その辺はどのように整理したらよいか。市としての考え方を出示してもらったほうが、市民のほうも納得がいくのではないかと思う。

【スポーツと文化部長】謝礼の基準ということか。

【委員】そうである。

【スポーツと文化部長】市も財団も同じだが、講師等への謝礼の支払基準がある。デビュー講座でデビューしていただいた 1 回目の方には、デビューする場を整え、チャレンジするための場づくりの支援をするという形で応援しているため謝礼はない。しかしすごく好評でもう 1 回やってほしいという話になった時には、財団のほうから謝礼を払うことになると思う。

【委員】今年始めた子どもふらっとプレイスも、人財バンク「まちの先生」から先生を探しているが、先生側からも非常に好評であるため、今後も継続していきたいと思っている。芸術文化協会にも協力をお願いしたい。

【スポーツと文化部長】財団が主催するものや市民大学総合コースでやっていただいているようなものは、基本的には市や財団が決めた謝礼の基準の中でやっているため、心配していただくなくて大丈夫かと思う。

【委員】趣味・教養講座でいろいろなジャンルの講座をやっていて、どんな講座をやったらお楽しみいただけるかということをお皆さんにご意見いただきたい。

【委員】子育て世代とか子ども向けの講座がもっとあると良い。子どもふらっとプレイス事業というのを始められたと伺ったのでぜひ体験したい。

また手仕事の講座もあるといいのかなと思う。趣味として幅広い世代の方が続けていけるような手仕事、金継ぎや手芸のような一旦始めるのに少しハードルが高いが、一度始めてみたらおうちで続けられるような、きっかけになる講座があればいいと思う。

先ほどのまちづくり研究員に関連して、三鷹市の小学校では職業人に話を聞くという講座を行っている。地域の様々な職種の大人を呼んで、子どもが気になる職業人のところに行って話を聞くというもので、親も聞けて、楽しくて勉強になる。そこには専門的な知識や技能のある地域の方が集まっているので、その拡大版みたいなものをできるといいと思った。特に子ども向けでなくて大人向けでもそういう講座があると良いと思う。予約不要で、興味があるところに聞きに行くことのできる機会があれば、気軽に来場していただけることにもなるし、地域

の方も魅力を発見できる機会になると思う。

【委員】三鷹市で新しく住宅を買おうと思うと、共働きが当たり前である。そこに子育て世代というのが重なってきて、時間と生活のスタイルに、今までにない課題が生まれてきていると感じている。そういう意味では、市民と自治体がすごく近い関係にあるのと、市民の裾野を広げていくという意味でも、市政を円滑に遂行するための市民の力が必要なのではないかと。まずは子育て支援もそうだが、その課題を解決していく中で市民が参加できると余裕も生まれてくるのではないかと。

【座長】市がこれから力を入れていきたい政策に関して、生涯学習センターで学習会をやるなどして学びの循環を構築していくといいのではないかと。そうすることで何か市民が関心を持つ、場合によっては市民参加で進んでいくのではないかと。大学と市で連携していくといいのかなと思っている。

【スポーツと文化部長】総合コースがもともとそのような趣旨でつくられている。社会教育会館から生涯学習センターになって公民館ではなくなったが、その分市民活動も含めたかなり幅広い講座を財団が主催で開催してきている。財団は例えばみたか学のような、三鷹の生涯学習センターだからこそやる講座、三鷹ならではの講座を意識的にやってくれている。生涯学習センターはどこの市も大体持っているが、三鷹の生涯学習センターだからこそその学びが提供されているという特色があるのはすごく重要なことなのではないかと。先ほどの、市民の方が講座の講師になったらいいのではないかとというアイデアがあるのも、同じことだと思う。

そういった活動と市民の皆さんの生活と学びが繋がっていった循環するというようなことが、生涯学習を所管している私たちの本来市民の皆さんに提供すべきサービスの趣旨なのではないかと思っている。その趣旨で利用者懇談会という形で、いろいろな立場で生涯学習センターに関わっている方から直接意見を言っていただく場を持っているということなので、そのようにご理解いただければありがたいと思う。

【座長】参加や協働ということで、三鷹の市政がすごく色づいてくる。それを、市のほうもどんどんオーダーを出していくと、より深まるのではないかと。

【委員】ネットワーク大学と元気創造プラザ、協働センターは講座を行う時等に何かすみ分けをしているのか。

【スポーツと文化部長】ネットワーク大学を立ち上げる時、当時、生涯学習センターは社会教育会館だった。総合コースのように市民の皆さんの発意で企画してやるものというのは、既に社会教育会館がやっているからネットワーク大学ではやらず、逆にネットワーク大学は大学や研究機関の皆さんがNPO法人の会員なので、国立天文台やICUのような大学や研究機関が知識や最先端の研究成果を市民の皆さんに提供する場所、という線引きがある。例えば国立天文台は三鷹にあるが、すごく大きなお金をかけて望遠鏡をつくったりする。それは市民の皆さんの税金なので、それを市民に還元する場所が欲しいというような趣旨がある。

なので、市民の皆さんの発意で市民の皆さんのやりたいと思うことをやる場所は、今でいえば生涯学習センターで、逆に大学側が市民の皆さんに知ってもらいたい、市民の皆さんに楽しく学んでもらう場所をつくるというのがネットワーク大学で、市民協働の場所で学びがあったらというようなコンセプトで行っているのが協働センターで、そういうコンセプトの違いは

ある。その違いがあるので、少し提供している内容の傾向の違いはある。

【委員】否定的にそのすみ分けを捉える必要はないということか。

【スポーツと文化部長】そうである。利用者懇談会やこの間までやっていたM a c h i k o eからも、自分が興味のある分野はどこにあるのか、来月何かこの日やりたいけど何があるのか等、縦串、横串で刺すことのできる情報提供の仕方を、施設の垣根を越えてやることはできないのかというご意見はいただいている、それはすごく大きな課題だと思っている。場所は違えど全部三鷹市内なので、共通して一緒に発信できるとか、もっと分かりやすく見られるものをどうやったらご用意できるかというところが、今、私たちの最大の課題だと思っている。

【委員】興味深いものがあったてもうまくつながっていかなかったり、情報がうまく得られなかったりということがあるので、それが統一的にできるとすごく良いと思う。

夜間の講座があるとよいという意見が出ている。周囲に市民大学の話をする際、興味はあるがその時間では無理だと言われる。若くて興味がある人に入ってきてほしいと思っても、時間の制約がある。短期のコースをつくってみたらどうかという話が出ていたのだが、実験的にやってみて感触をつかむというのも有効かもしれない。

あと、若い人とお話してどんな場が欲しいかという話になったときに、仕事や勉強につながっていくような、人と人との出会いができるような場所があると非常に助かると言われたことがある。公共の場所でやるというのは、安心感もある。ぜひ三鷹市としてそのような形をやっていくといろいろなことにつながっていくのではないかと思う。

【スポーツと文化部長】それは学びを通じてなのか、それとも、例えばサロンのような、先生に向かって座るといところからスタートしなくてもいいのか。学びがあって、その学びの後に一緒に学んだ人たち同士がコミュニケーションできる場があったほうが良いということなのか。

【委員】勉強があったほうが良いと思う。何かしらのテーマを設定してやっていったほうが、確実な人たちが集まると思う。何か暇つぶしができるような場所ではなくて、ある程度の目的意識を持った人がここに来てくれるような形にしたほうがよいと思う。

【委員】夜間や土日の講座が欲しいというのは切実に思う。私も市民大学事業の子育て講座にできれば出たいと思ったが、平日にやられているということでハードルが高い。

あと連続講座ではなくて単発の講座もあると良い。子ども発達支援センターがあるので、そこで一時保育をしている間に親が上に上がってきて何か学ぶような機会があれば、こちらで学びが開かれているということを知る機会にもなるし、交流の機会にもなる。子どもと一緒に遊べるというのも大事だと思うが、一時離れてというのも親の学びの良い機会だと思うので、そういう講座もあるといいと思う。

またスポーツセンターに来られている方に生涯学習センターの活動を周知するような連携があるといいと思う。よく気をつけて見れば掲示はあるが、気をつけずに帰ってしまう人も多い。せっかく足を運んで来ているので、同じ場所の上の階に学ぶ場所があるということを周知できれば良いと思う。

【委員】世の中の教育スタイルに通信制のようなものの割合が増えてきていると思う。そういう意味で、参加できなかった方へのアーカイブ的な配信や講座自体を通信でやるのはどうか。

そういう裾野を拡大することと、今までにない市民タレントの発掘みたいな、次世代につながるような活動をするのがいいと感じた。

【スポーツと文化部長】昼の講座が必要な方もいらっしゃるのももちろん続けていくがその時間だと絶対来られない人は当然いらっしゃる。リアルタイムのオンラインの Zoom がいいのか、Zoom で配信の講座がいいのか、後で倍速で見られるオンデマンドがいいのか、いろいろな方法があると思う。

技術的な問題やどれぐらいの容量のサーバーが必要か、また先生方のものを撮らせていただいて残すことに関しては著作権管理をきちんとしたほうが良いのか等、いくつかハードルはある。ただ、今までのようにこの場所に来てください、面白い講座あります、という以外の選択肢が求められ始めているんだなとすごく思う。それは協働センターやネット大でもみんな同じ課題を抱えていると思うので、何か同じようなプラットフォームをつくって皆で使うとか、そこを見れば面白いものが必ずあると分かっていたとか、そういうことが私たちの次の課題であるということを感じている。提言書の中にもきちんとして書いて、皆さんと共有していきたいと思う。

4 その他

【事務局】次回の懇談会は、令和7年2月頃に開催予定である。本日いただいたご意見を資料3の市長への意見及び提案の中に追加させていただき、案として作成する。それを利用者懇談会を開催する前に、皆様にメールや郵送等でお送りするので、ご確認いただきたい。

-午後5時30分閉会-